

練習は不可能を可能にする

—「フェアプレイ」の精神で試合に臨み、「よき友」をたくさんつくろう—



開倫ユネスコ協会 会長

開倫塾 塾長 林 明夫

開倫ユネスコ協会は、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない…」とのユネスコ(UNESCO=国際連合教育科学文化機関)の理念のもと「人間の安全保障の推進」を設立の目的にかかげ、書き損じはがきを集めて「世界寺子屋運動」を支援する活動や、教育文化、科学、福祉等に関する活動をしています。

また、開倫ユネスコ協会を全面支援する開倫塾は、ドッジボールをオフィシャルスポーツとしております。

開倫ユネスコ協会では、茨城県ドッジボール協会が主催する本大会を特別協賛させて頂き、誰もが手軽に楽しめるスポーツ、ドッジボールを通して「子どもたちの健全育成」と「地域の教育力向上」を図って頂きたく希望します。

さて、慶應義塾大学の塾長をお務めになった小泉信三先生の教えに、「スポーツの3つの宝」があります。ドッジボールなど、スポーツを通して得られる「宝もの」とは、

- (1)「練習は不可能を可能にする」
- (2)「フェアプレイ」
- (3)「よき友」

この3つです。

ドッジボールを通して、「練習は不可能を可能にする」と「フェアプレイ」の精神、さらには、生涯にわたって友情を育むような「よき友」を得て頂きますようお願いいたします。

茨城県ドッジボール協会はじめ本大会関係者の皆様、審判団の先生方、参加頂いたチームのコーチ・監督の先生方、保護者の皆様の御理解、御協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

感謝